

「優性遺伝」は「顕性遺伝」に、「劣性」は「潜性」...偏見対策で学会が変更〔読売新聞〕

2017 年 09 月 25 日 18:40

日本遺伝学会は、遺伝子の特徴の表れやすさを示す「優性」「劣性」を、それぞれ「顕性（けんせい）」「潜性（せんせい）」に改めると決めた。遺伝子に優劣があるという誤解や偏見を生む恐れがあるためで、同学会は関連学会と協議してこれらを含む約 100 語を改訂し、一般向け用語集を出版する。文部科学省にも教科書検定での用語見直しを要請する方針だ。

同学会によると、「優性」「劣性」は、「メンデルの法則」が明治時代に国内へ伝来して以降、1 世紀以上にわたり使われてきた。しかし、遺伝子に優劣があると誤解している人も少なくないため、改訂を決めた。

このほか、「突然変異」は、元の用語「ミューテーション」に「突然」という意味が含まれないことから、「変異」とする。「色覚異常」は、「異常」に違和感を持つ人もいるため、「色覚多様性」という用語を新たに追加する。

同学会会長の小林武彦・東京大教授は「ゲノム（遺伝情報）が身近になり、ゲノムの多様性を優劣で表現するのは、差別と取られかねない。改訂した用語を定着させたい」としている。

（2017年9月25日 読売新聞）